

「子育て世代」に聞いてみた、 自治会ライフを豊かにするコツ

～ 大人も子どもも集えば楽しい！ ～

取材・文：市民ライター 高橋 三千代

都筑が丘第2自治会（会長 小林 英紀 氏）は、意欲的に活動する「イベントサークル部」を有する。同部の年始イベントに参加し、子育て世代ならではの取り組みについて伺った。

都筑が丘第2自治会イベントサークル部 総務 吉野 太 さん

「楽しく自治会に参加する大人の姿が、子どもたちの成長の糧にもなる」と吉野太さん。withコロナにありながら、集えば楽しい！ イベントサークル部のバージョンアップを牽引する。



自治会の伝統行事を繋いできた祭事の サポート組織「イベントサークル部」

小正月行事「どんど焼」のお焚き上げの炎が上がるなか、都筑が丘第2自治会の皆さんが「家内安全」「疫病退散」を祈願する。その後大人たちは雑煮を振る舞うために、昔ながらの杵と臼を使っての餅つきに熱が入る。周りでは笑顔の子どもたちが、羽根つき・ゴム鉄砲・竹とんぼ等に興じる。

「餅つき・夏祭り・芋煮会をメインとしたイベントサークル部は、自治会の役員だけでは実施が大変だった祭事サポートの役割を担って10余年の歴史があります。懐かしい遊び道具は、イベントサークル部メンバーの表裏屋さんに頼みました」と同サークルの吉野太さん。自らも二人の子どもの父親だ。川和町に越してきてすぐに、近所の先輩会員の声かけをきっかけに入部した。「会社以外のコミュニティに参加することで、多世代や異業種の方々と交流でき、心の拠り所ができました」と振り返る吉野さんには、部



お雑煮を囲む地域の皆さん



懐かしい遊び道具の使い方を表裏屋さんに教えてもらう



けん玉遊びに挑戦

「ノーコミュニティ・ノーライフ」

ここ数年イベントサークル部は、感染症対策に配慮して祭事を催している。特に夏祭りは、規模はコンパクトにしながらも多くの家族参加があり、成功を収めた。

「久しぶりにお神輿（みこし）を祀り、焼き鳥や牛のしぐれ煮などの飲食物をテイクアウト形式にして、お家でも楽しめるような配慮をしました」と同部長の平澤満男さん。

「やるのであれば対策を取ってしっかりやれたほうが良い、という諸先輩方の声が後押しになりました」と、自治会とイベントサークル部の密な連携を語る吉野さん。また部内の先輩・後輩の関係性は上下関係ではなく、発言がしやすいフラットなものであると明かす。そんな関係性が伝わってくるのが、皆で着用している吉野さんデザインの「ノーコミュニティ・ノーライフ」のロゴ入りTシャツだ。「デザインは、活動拠点の都筑が丘第三公園から見える、晴れた日の山々をモチーフにしました。」

子どもも大人も楽しむ

新時代のイベントを恒例行事に

イベントサークル部は、withコロナにふさわしい新しい形のイベントを模索し、秋の夜長を楽しむ「T2オータムナイトフェスタ」も企画した。「大人も子どももチケット制とし、いずを持参してもらってキャンプファイヤーやアコースティック



左からイベントサークル部会長の市川さん、平澤会長、会長代行の小森さん、総務の吉野さん